

諏訪東京理科大学として考える、有識者会議の提言への対応(案)

- 有識者会議の意見への対応については、今後、検討協議会で検討することとなるが、現時点で、大学として考えられる対応案を示す。

1. 教育の充実

- (1) 公立化のみでは不十分。より魅力のある大学にすることが必要。
- (2) マネジメント系教育の充実→共通・マネジメント教育センターを設置してマネジメント系の教育を実施。（現在よりマネジメント系履修単位数を増加）
- (3) 高等学校との連携、地域枠の設定→県内枠、諏訪圏枠、工業高校枠等の充実。実質化するために、入学前、入学後のていねいな高大接続を実施。
（教育助教の補強）
- (4) 地域から学ぶ教育→現在も実施しているがさらに充実（地元企業、地元地域からの外部講師充実、地元に出る体制の整備）
- (5) 地域住民、社会人、シニア層、別荘居住者等への生涯教育とスキルの活用
→企業新人教育への協力、「スワリカサポーターズ」を計画中
- (6) 企業体験の充実→国内及び海外インターンシップ（奨学金の充実）
- (7) 資格取得、技能教育の充実→資格取得はさらに充実、技能教育は外部機関の協力を仰ぐ。
- (8) 理系女子学生の増加→女子指定アパート等の支援の充実、理系女子が関心を持ちやすい学科（将来の計画）
- (9) 教職課程の設置→教職の専任教員が必要（要検討）

2. 地域連携の強化（研究開発、地域協力）

- (1) 「地域連携研究開発センター（仮称）」→地元密着型の研究開発。
地域の企業から持ち込まれる具体的な課題に対応。（補助金の獲得及び学内資金を確保）。
- (2) 先端技術の発信：「地域連携研究開発センター（仮称）」において、医用、人工知能、センサー、社会データ活用等を推進（若手人員の補充）。

- (3)地元から見えやすい大学（サテライトキャンパス等）：大変魅力的であるが、教育自体を複数個所で行うことは、大学設置基準への適合、学生の移動手段等を考えると、人員と経費負担が極めて大きくなり実際的ではない。ただし、産業界との連携拠点、学生・生徒の交流拠点を諏訪圏内に設ける。
(運営のための資、人員、移動手段の確保)

諏訪圏内の主な拠点との連携（案）

岡谷市：テクノプラザ岡谷、岡谷工業高校

下諏訪町：ものづくり支援センター下諏訪

諏訪市：三大学連携セミナーによる産業系連携、三高等学校（清陵、二葉、諏訪実）＋放送大学との交流拠点

茅野市：茅野産業振興プラザ、コワーキングスペース、市内高等学校

富士見町：富士見森のオフィス

原村：農業実践大学校、自然文化園（サイエンス教育）

3. グローバル化

海外との連携強化 海外大学との協定、教員相互交流、学生交流

4. 東京理科大学との連携維持・強化 【資料 4-2②別添】